



絵本の夜・紙芝居の朝

Vol. 6

さくらももふみ
佐倉桃史®

じゃがいもを主食にしようと決めてから二か月が経ちました。

朝食は茹でたじゃがいもにフェネルシードをまぶしたポテトサラダを添えてハインツのトマトケチャップをかける。昼は食べずに、夜はオリーブオイルと塩コショウで味を変えたポテトサラダとトマトジュース。

もともと連日同じものを食べ続ける癖があるので、今のところ特に飽きる事もないし気分も体調も良好です。

ただ何となく最近自分の服の襟元あたりから謎のアメリカ臭が漂ってくる様な気がします。「マクドナルドのにおい」と言えばおわかりでしょうか。

しかも心なしか人格までが徐々に「妥協と米飯と納豆を愛する日本人佐倉桃史」から「飽くなき挑戦と芋とコカ・コーラを愛するアメリカ人ジョニー」へと変化しつつある様な気がして仕方がありません。その証拠に先週あたりから僕は毎日カントリー音楽ばかり聴いて過ごしています。仕事場にハーモニカを持ち込んで暇な時にピョーと鳴らしたりしています。これはもうかなりジョニー化が進んでいると言えるのではないのでしょうか。そのうちにテンガロンハットをかぶって放浪の旅に出るかも知れません。

カントリー歌手ジョニーキャッシュの最大のヒット曲『スーという名前の男の子/A Boy Named Sue』は、そんな僕が最近毎日飽きもせず繰り返し聴いている曲のひとつです。

「スー」という女の子みたいな名前を付けられた少年が、周囲の嘲笑に対抗しているうちにすっかりぐれて、自分にそんな名前を付けたあげく家族を捨てて出て行った父親を探し出して復讐を試みるという冗談のような長い歌です。

俺の名前は「スー」
ごきげんよう!
今すぐあの世に行きな!

『スーという名前の男の子』より



作詞者はなんとあのシェル・シルヴァスタイン、言うまでもなく絵本『ぼくを探しに/The Missing Piece』や『歩道の終わるところ/Where the Sidewalk Ends』そして『おおきな木/The Giving Tree』の作者その人です。

高校生の頃『おおきな木』を何かのきっかけで読み、とても心を動かされた事を今でも覚えています。

あの頃の自分がこの作品の何に対してそれほど強い感銘を受けたのか正確には思い出せないのですが、絵本を何冊も買って周囲の友達に配ってまわったのも少し痛い思い出のひとつです。

誕生日でもクリスマスでもないのに、意図のよくわからない突然の絵本のプレゼントを訝ることなく受け取ってくれた当時の友人ひとりひとりに『おおきな木』の感想を聞いてみたい気もしますが、彼女達が今どこに住んで何をしているのか、もう何もわからなくなってしまいました。

『おおきな木』シェル・シルヴァスタイン作/本田錦一郎訳 篠崎書林 1976 年

イラスト：世奈

転載、二次使用、AI 学習を禁じます。